

緑区鳴子団地
健康と暮らしのアンケート 2018
中間報告書



国立長寿医療研究センター
老年社会科学研究部

2019年8月

ごあいさつ

現在、我が国では可能な限り住み慣れた地域で最後まで生活できるよう（地域包括ケアシステム）、介護予防の取組みや生活の困りごとを支え合える地域づくりが進められています。私ども国立長寿医療研究センター老年社会科学研究部では、2015年12月に緑区鳴子団地の65歳以上の全員を対象に、健康づくりや地域の支え合いの様子をたずねるアンケート調査を実施しました。さらに皆様の3年後の様子を把握するため、2018年に再度65歳以上の全員を対象とする調査を実施させていただきました。

本報告書は、中間報告（第1報）として、皆様の貴重なご回答からいくつかを抜粋し、集計した結果をご紹介します。

今後、私どもでは皆様からいただきましたご回答・ご意見を参考に、地域のさまざまな機関と協力して、より良い健康づくり・地域づくり活動を検討させていただきます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

2019年8月

研究代表者 斎藤 民
国立長寿医療研究センター
老年社会科学研究部

調査の対象と方法

緑区鳴子団地にお住いの65歳以上の方々全897名（2018年11月現在）を対象に、2018年12月郵送留置き自記式質問紙調査を実施しました。有効回収は537名（有効回収率59.9%）でした。

結果の読み方

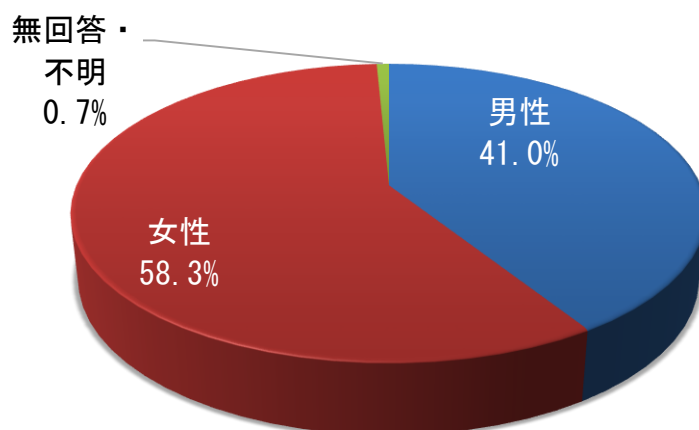
537名の方が各質問にどのように回答したのかについての分布を示しています。四捨五入の関係でパーセンテージの合計が100にならない場合がございます。

結果

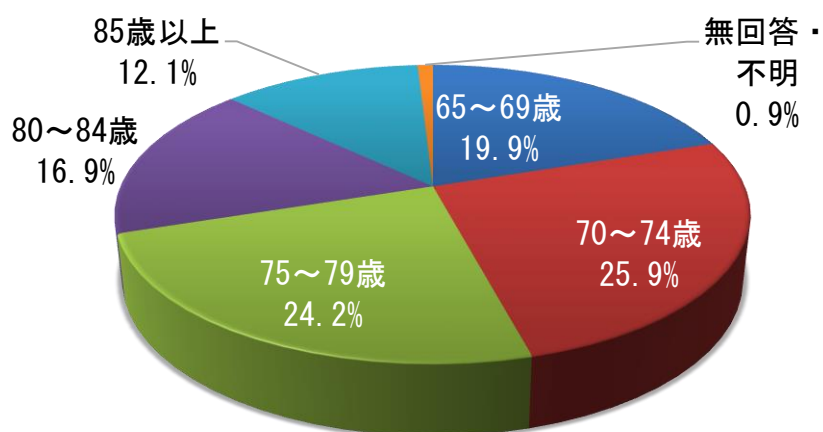
● 基本属性

回答者の41.0%が男性でした。平均年齢は76.0歳、70歳～74歳の方が25.9%と最も多くみられました。3年前に同地区で実施した調査に比べると、65歳～69歳の方が減少し、85歳以上の方が約5%程度増加していました。

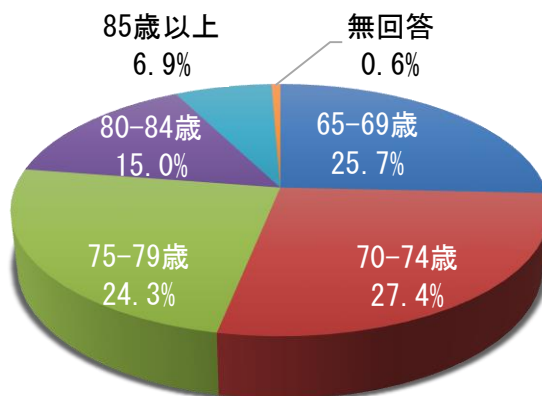
性別 (2018)



年齢 (2018)

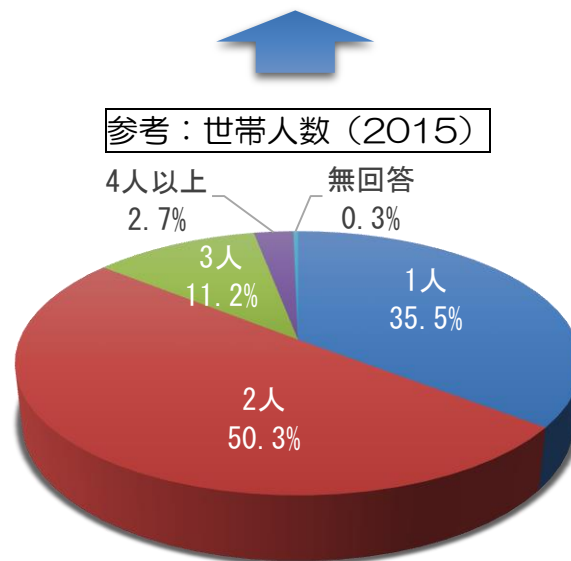
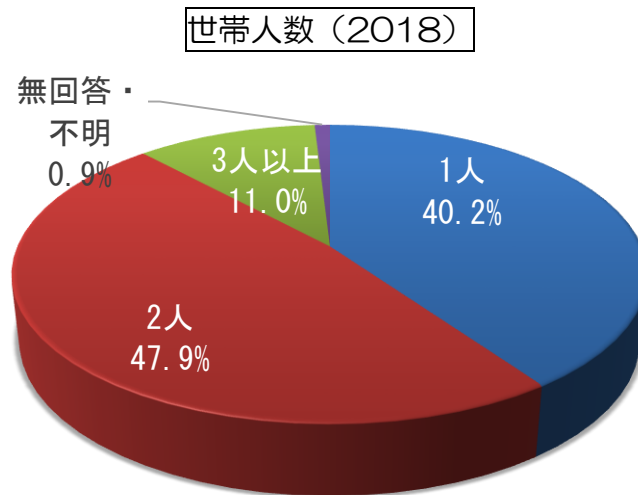


参考：年齢 (2015)



- 住まい

鳴子団地では2人暮らしの方が半数と最も多く、一人暮らしの方と合わせると9割弱を占めました。ただし2015年調査から比べると、2018年調査では、ひとり暮らしの方が約5%増加していました。

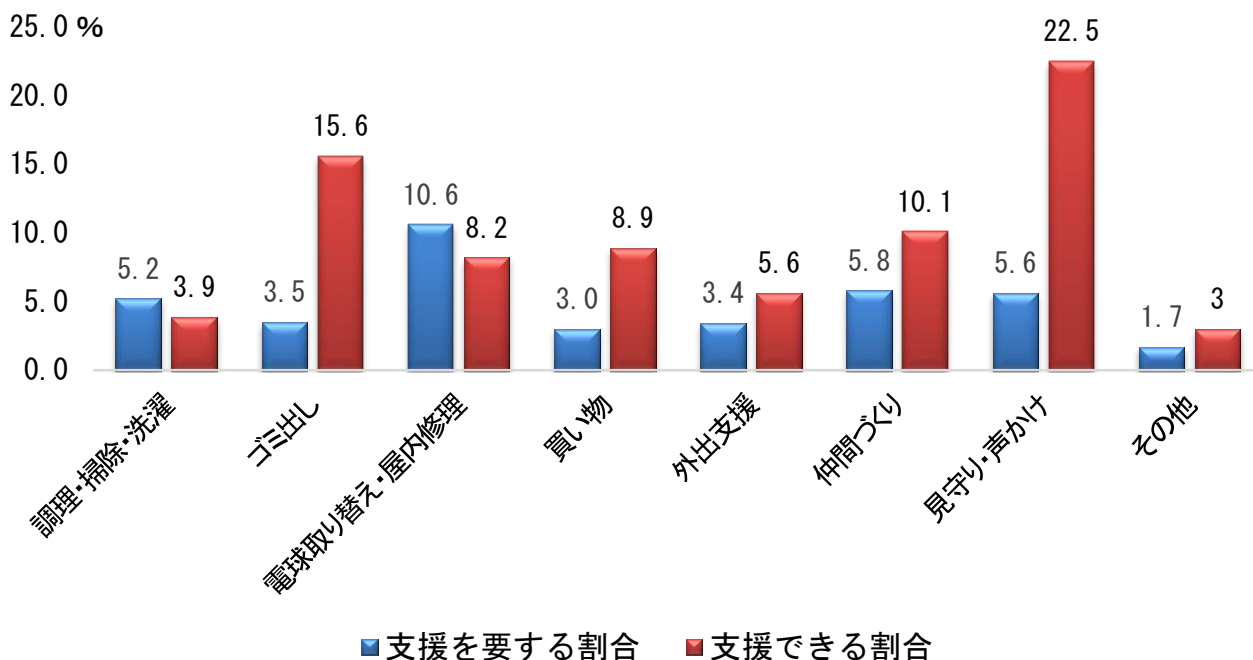


- 生活のなかでの支え合い意識

日常生活において「誰かに支援してもらえると助かると思うこと」「反対に、助けを必要としている人がいたら手伝っても良いと思うこと」についてたずねました。グラフは、それぞれの項目についてあてはまる割合を示しています（青が支援してもらいたいこと、赤が支援できると思うこと）。その結果、支援してもらいたいことのなかで最も多いのは、「電球の取り換えや家の中の簡単な修理（10.6%）」でした。反対に、支援できると思うことでは、「見守り・声掛け（22.5%）」や「ゴミ出し（15.6%）」が多くみられました。

「調理・掃除・洗濯」「電球取り替え・家の中の修理」では支援を要する割合が支援できる割合を上回りましたが、その他の支援はいずれも支援を要する人以上に支援できている人がいることがわかりました。

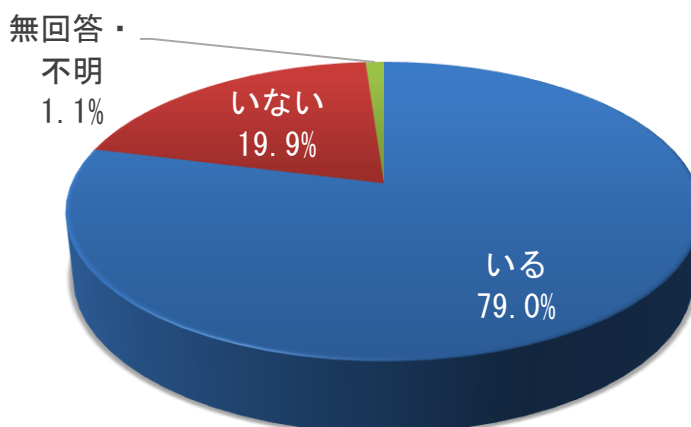
支援してもらえると助かること、手伝っても良いと思うこと



● 困りごとの相談相手

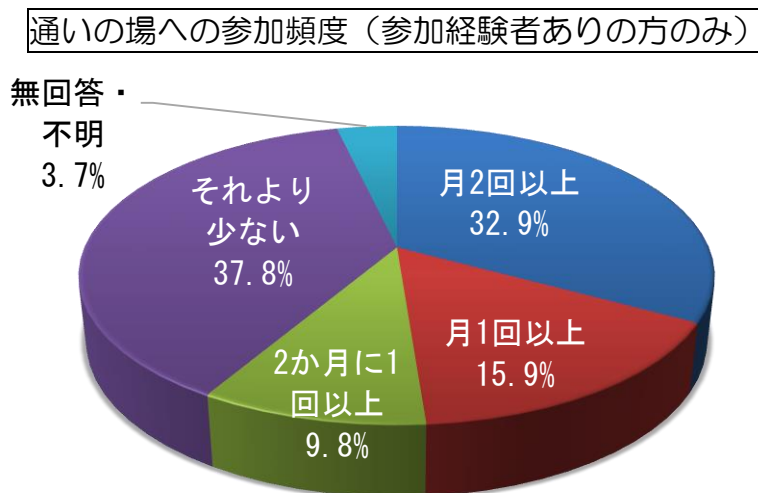
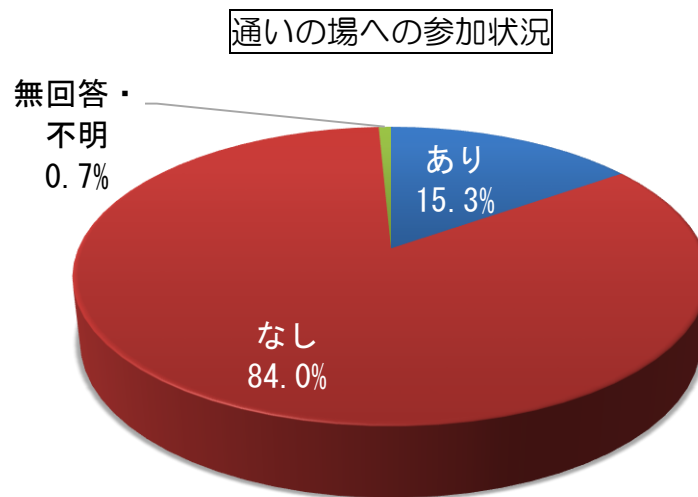
困りごとを相談できる相手がいるかどうかについてたずねたところ、約8割の人はそうした相手が「いる」と回答していました。

困りごと相談できる相手

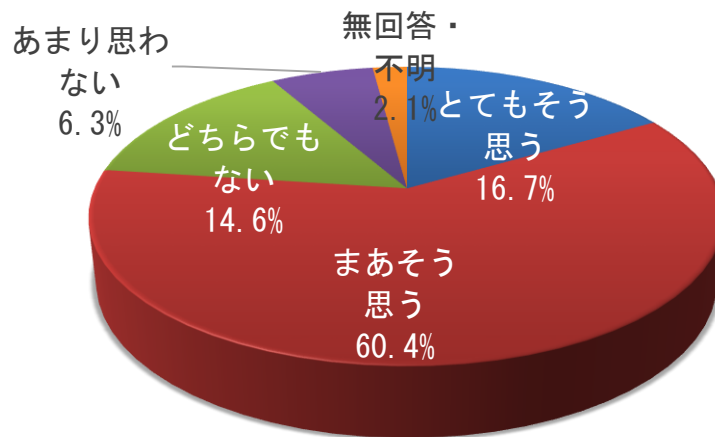


● サロン等「通いの場」への参加状況

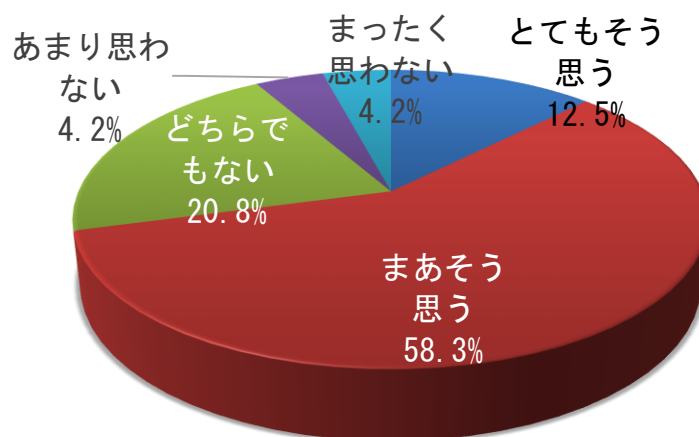
鳴子団地には数年前からサロン等「通いの場」があります。参加経験のある方は約7人に1人でした。参加頻度についてたずねると、参加経験者の約6割が「2か月に1回以上利用している」と回答していました。この方々を定期的に参加されている方とみなして、通いの場についての評価項目を集計したところ、8割弱の方が「通いの場が楽しみの場となっている」と認識していました。また7割以上の方が通いの場が「健康に良い情報を得る場になっている」と認識していました。



通いの場が楽しみの場になっているか（2か月に1回以上参加の方のみ）



通いの場が健康に良い情報を得る場になっているか（2か月に1回以上参加の方のみ）



おわりに

高齢化の進む我が国では、自助（自分の努力）、公助（公的制度）、共助（医療・介護保険や年金）と互助（地域での助けあい）を組み合わせた支え合いがますます重要となります。鳴子団地では、さまざまな生活の困りごとについて「支援が欲しい」と感じる方よりも多くの方が「支援できる」と回答していました。今後は、支えが欲しい人と支えられる人のマッチングを図るシステムづくりが地域の支え合いを一層推進するうえで重要と考えられます。

他方、国民の健康づくりの指針となる厚生労働省の「健康日本21」では、社会参加の促進等による高齢者の健康づくりが推進されています。鳴子団地では以前からサロンなどの通いの場が展開されており、約7人に1人が「参加経験がある」と回答していました。

また定期的に参加する人の多くが通いの場を「楽しみの場」「健康に良い情報が得られる場」と認識していました。

これらの支え合いや通いの場にご関心のある方は、「緑区社会福祉協議会」や「緑区北部いきいき支援センター」「緑保健センター」など、身近な相談にのってくれる地域の公的窓口までお気軽に相談してみてくださいはいかがでしょうか。